

プレスリリース

2003年6月17日

BASF、環境にやさしい包装紙用バリア・コーティング剤

BASF (本社ドイツ、ルートヴィヒスハーフェン)の包装紙用バリア・コーティング剤は、全量リサイクル可能な環境対応型製品です。20カ月かけて開発されたこのポリマー・ディスパーションを塗工した紙は、水、湿気、油、グリースから梱包物を守るばかりでなく、既存の生産工程に組み込めるため、メーカーはコストを抑えることが可能で、製紙業界にとって、環境に優しくかつ競争力の高い紙包装材の製造に貢献しています。BASFのバリア・ディスパーションでコーティングした包装紙は、ストラ・エンソ社(紙・板紙メーカー)が今年の初めより発売開始しています。

顧客企業との協力で競争力の高い製造プロセスを実現

このコーティング剤の商品化にあたり、ストラ・エンソ社の特殊紙部門のフレキシブル・パッケージング事業部と連携し、パイロット・プロジェクトとプラント試験を実施しました。ストラ・エンソの事業開発マネージャー、キース・ダマレル氏は、この工程のメリットとして「BASFのバリア・ディスパーションは既存のプラントで使える」とことを挙げ、同社の紙製品や板紙製品にポリマー・ディスパーションを直接塗工できるようになったと述べています。BASFのバリア・ディスパーションをコーティングすれば、包装紙の製造工程を削減できるばかりでなく、その最大の特徴は、バリア・コーティングなら、複合包装材の製造よりも短時間で塗工可能なため、全量リサイクル可能な包装材料が製造できるという点です。

BASF 事業開発プロセス：系統的なイノベーション・マネジメントにより短期間で商品化を実現

BASFは、2001年7月から、いくつかの事業開発チームを各種事業部に設置し、系統的なイノベーション・マネジメントを導入しています。事業開発チームは、さまざまな革新的なアイデアを発掘し、事業部や顧客と協力して商品化していきます。プロジェクトは、すべて、明確に規定された一つの事業開発プロセスに従って行われます。今回のバリア・ディスパーションの開発に、この事業開発プロセスが用いられ、「この事業開発プロセスが短期間でアイデアを商品化できることを示した」と機能性ポリマー事業部を統括するマーティン・ブリーダーミュラーは述べています。

業界では、15年ほど前から、高コストで複雑な複合包装材に代わる製品の必要性が指摘されてきました。今まで、梱包された物品をさまざまな環境条件から保護していたのは、ワックス・コーティングやアルミ箔、プラスチックフィルム等でした。BASFのバリア・ディスパーションでコーティングした包装用紙・板紙は、全量リサイクルが可能です。「この技術は、将来性が高いこの市場に対する当社の強いコミットメントを示すものです」とBASFのプロジェクト・マネージャーのウォルフガング・ホームッドは説明しています。

BASFは、製紙業界をターゲットに、さまざまな事業を展開し、紙・板紙の生産や紙コーティングで使用する製品を世界的に開発・生産・販売しており、今回のプロジェクトによって、その事業範囲がさらに拡大しました。

BASFの機能性ポリマー事業部では、衛生や粘接着剤、建築土木、製紙などの業界向けのアクリル・モノマーや高吸水性樹脂、機能性ポリマーなどを取り扱っています。これらは、主にアクリル酸や

アクリル酸エステル、スチレン、ブタジエンを原料として製造されます。2002年、同事業部は25億ユーロの売上を計上しています。

■ BASF Group について

BASF (ビーエーエスエフ)は、原油と天然ガスその他、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカル等の高付加価値製品をお客様に提供する世界の化学業界のリーディング・カンパニーです。BASFの統合生産・経営システムは、ドイツ語の「フェアプント」として知られ、同社の特異な強みであり、コスト面での優位性と競争力をもたらしています。BASFは「持続可能な発展」の基本方針に則って企業活動を行っています。2002年度は約320億ユーロ(約340億ドル)の売上高を計上し、世界で8万9000人の従業員を抱えています。BASFの株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、パリ(BA)、チューリッヒ(BAS)の各株式市場において取引されています。同社のインターネットホームページアドレスは：www.basf.comです。BASF ジャパン(株)のインターネットホームページのアドレスは：www.basf-japan.co.jpです。

■ 本件についてのお問い合わせ先

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ 小池
TEL：03-3238-2376

BASF ジャパン(株)
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒102-8570 東京都千代田区紀尾井町 3-3
電話：03-3238-2376
Fax：03-3238-2514
<http://www.basf-japan.co.jp>

+65 6432 3684 (Corporate Communications Asia Pacific)
+49 621 60 9 99 38 (Corporate Media Relations BASF Group)
E-Mail: presse.kontakt@basf-ag.de

BASF